

2023 年 10 月 30 日(月)

北京市教育視察に参加して（1）

久々の校長ブログ更新です。多忙と言え言いつにありますが、10月15日～21日まで日中新世紀会(超党派国会議員組織)の吉村 善和理事長のご尽力により、北京市教育委員会の招聘という形で第3回東京都訪中代表団(嵯峨 実充団長:品川エトワール女子高等学校理事長)・第1回首都圏訪中団(川並 芳純団長:光英 VERITAS 中学校高等学校校長)の一員として視察・研修・交流に参加して来ました。今回は北京市にある5つの有名高校の訪問、清華大学日本語学科学生との交流、また在中国日本国大使館表敬訪問などを行いました。

本校では、私の着任後の2002年以来、JICA、JICE、全国国際教育研究協議会などとの協力の下、3回の中国高校生の訪問を受け入れ来ましたが、ここ数年は残念ながらコロナ禍もあって中国だけでなく海外との直接的対面的交流は途絶えています。今回の北京市教育視察を通じ、積極的な交流を深め、提携校契約を締結するなどして若い世代による国際交流の場を広げて行きたいと考えています。

個人的には、私にとって16回目の中国旅行ですが、最後に北京を訪問したのは北京オリンピックゲーム開催前の2006年のことであり、街の環境や雰囲気だけでなく、大きな教育界の実情を直接感じ取ることができ、この間の教育・教師を取り巻く環境変化や日中に共通する教育的課題などを学ぶことができました。簡単ではありますが、これまでの経験を踏まえつつ、現在の北京における教育の実情について連載という形で報告したいと思います。

折しも、行楽シーズンを迎えた北京では中国各地から多くの観光客が集まり、さらには国際協力フォーラム『一帯一路サミット』を開催中であり、プーチンほか世界中からグローバルサウスを中心に140を越える国の首脳や財界人を迎え、北京市内は混雑と警備強化でピリピリとした感がしました。

また、今年23日で日中平和友好条約締結45周年を迎え、^{たるみ}垂秀夫大使は、釣魚台国賓館芳華苑で行われた記念レセプションに出席し、さまざまなレベルでの次世代を担う若者たちによる親善と友好の重要性について述べておられます。私たちの表敬訪問での懇談でも、コロナ禍以降、留学者数も伸び悩んでいることを気に掛けておられました。ただ、北京市内の90の中学(日本の高校)では、第二外国語として「日本語」を選択することができ、全国統一の大学入試「高考」や大学入試でも日本語受験が可能になっているそうです。

因みに、2023年上半期までの中国における日本アニメの興行収入では、『すずめの戸締まり』(約8億円)『スラムダンク』(約6.5億円)と圧倒的な人気を得ているとのことで、日本語ブームは衰えを見せていません。そのため、北京大学日本語学科(定員50名)、清華大学日本語学科(定員20名)は狭き門となっているそうです。

(つづく)

校長 石飛 一吉